

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習(2):
対人関係開始場面を課題とした初級セッションの記録

田 中 共 子 ・ 高 濱 愛

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習(2)： 対人関係開始場面を課題とした初級セッションの記録

岡山大学社会文化科学研究科・田中共子
一橋大学大学院法学研究科・高濱 愛

【序】

日本の大学から海外へ学生を派遣する際、日本の大学の留学担当者によって学生が直接サポートを受ける機会は通常、留学前・中・後のうち「留学前と留学後」の2回に設定されている。異文化間教育の観点からいうなら、「留学前」の段階では、留学中の状況に対応できるように、問題発生を防ぐ予防的な意図と、学びの成果を高める意図から、留学予定者を対象とした留学前準備教育の提供が期待される。「留学後」においては、再適応の支援が期待されるだろう。これらの時期における大学のサポートには、手続き的な支援や情報提供が定着しているが、筆者らはこれらの時期において、異文化間教育の視点から留学の心理教育的ケアを提供する体系を構想している。

本項で焦点を当てるのは、留学前段階での異文化間教育である。そこで異文化対応能力を高める開発的教育を試みたので、報告したい。我々は、①留学前の時点において、②留学予定者を対象に、③留学先の社会文化的状況に即した、ソーシャルスキル学習セッションを実施した。これは臨床心理学の認知行動療法で用いられる、ソーシャルスキル・トレーニングの手法を応用した心理教育としてデザインされ、留学の心理的準備状態を確保することをそのねらいとしている。学習者は臨床グループではなく健常者であり、治療を旨とする医学モデルではなく、能力の開発を意図した教育モデルに準拠する試みである。

セッションにおける直接的な目的は、異文化間対人関係形成に有用な技能を身につけることである。期待される波及効果は、異文化圏における対人的交流への動機付けと自己効力感を高め、留学前の不安を低減して環境移行への肯定的で積極的な認知を高めることである。現実的な利点としては、彼らが渡航した後に、異文化環境下の留学生活になめらかに移行すること、ホストとの誤解やトラブルを回避すること、ならびに関係性の開始・維持・発展を通じて対人的サポート源の確保と活性化をもたらす、異文化適応に資することを期待する。この背景には、ソーシャルスキルの異文化適応促進仮説、ならびにソーシャルサポートの異文化適応促進仮説がある(田中, 2000)。基礎的調査を通じて検証されてきたこれらの仮説を、学習の実施によって証する意図が、本研究を含む介入実践研究のシリーズに込められている。

渡航後の不適応のリスクを事前に減じることができるとは、こうした試みには健康教育の観点からの意義もある。留学政策としてみても、送り出し機関がより安心して送り出せる利点

を指摘できる。留学後に現地で、学習済みのソーシャルスキルを使用するかどうかの判断は学生にゆだねられているが、行動のオルタナティブを提供し、認知的に文化的準拠枠を拡大しておくことは、行為の選択肢を付与することを意味する。本学習セッションの中心的な意図は、こうした対処能力の拡大にある。

以上のような観点から筆者らは、アメリカへの短期交換留学を予定している日本人学生を対象に、合計3日間のアメリカン・ソーシャルスキル学習セッションを実施した。そこでは初日に初級スキル（高濱・田中、2009a）、2日目に中級スキル（田中・高濱、2008）、そして3日目には上級スキル（高濱・田中、2009b）を、三週間の期間中、断続的な3日間で扱う構成を取った。本稿はこのうち初日の初級スキルに関するセッションについて、セッションの対話記録を報告するものである。セッション中とセッション直後の参加者の記述的な自己報告と、助言者役であったネイティブ学生の記述報告と口頭コメントは、高濱・田中（2009a）で分析されているが、現実のセッションで誰が何をどう発言し、どのような反応を得ていったかという、具体的な進行の様子は記されていない。セッションへの反応のみならず、セッションの経過自体を併せてみていくことで、集約され評価された情報のより正確な理解が可能になると思われる。進行の様子自体を、対話記録を通じて詳しく見ていくことは、手法の改善点を見いだす手がかりにもなり、後続研究者が実践の手順を具体的に知ることも可能にするだろう。以下、本稿では、セッション中における発言の仕方と内容に焦点を当てた検討を行う。

【方法】

1. セッションの設定

高濱・田中（2009a）にあるように、西日本の国立大学法人X大学において、短期交換留学予定者に本セッションに関する説明会を開催して概要を伝えた。希望者が研究協力に承諾したうえで、学習者としてセッションに参加した。謝礼として、書籍と文具を渡した。本稿の第一、第二著者がファシリテーターを務めた。X大学に留学中のアメリカ人男子留学生1名（Jさん）が、ボランティア協力者として参加した。

今回報告するセッションは、3分割されたセッションの初回に該当する。2007年6月に、90分×3コマの半日セッションとして、休憩を挟みながら実施された。全8スキルのうち、比較的容易な、対人関係の開始時に関わるスキル1～3までを取り上げ、スキル学習という形態への導入に留意して行う「初級セッション」として位置づけた。

学習内容は、アメリカ留学に必要なとなるソーシャルスキルを述べた田中（1994）を参照しながら選択し、それらを学ぶのに適した課題場面を設定した。学習の要領と内容は、バインダー式のテキストとしてまとめて、参加者に配布した。課題を提示したページ、解説のページ、書き込みのページから構成されており、持ち帰りページ以外の、提出を求めるページは適宜回収した。

表1 セッション参加者の属性

ID	性別	年齢	学年	留学予定大学
S1	男	20	3	A大学
S2	女	20	3	A大学
S3	女	20	3	B大学
S4	男	20	2	B大学
S5	女	21	4	B大学
S6	女	21	4	C大学

※S3はスキル1の学習を欠席し、スキル2と3のみ学習した。

※英国留学予定のS8(男性・全スキル)と中国留学予定のS9(女性・スキル1のみ)も学習の参考にと参加していたが、留学先でのスキルを学ぶ他の参加者とは動機付けや学び方が異質と考えられるため、記載を省略し、今回の分析の対象から外した。

※表中の留学予定大学の記号が同じ場合は、同じ大学に留学予定であることを示す。

2. 学習者

法学、経済学または教育学を学ぶ、日本人大学生6名(表1)が、初級セッションに参加した、今回の分析対象者である。全員アメリカに約10ヵ月間の短期交換留学をすることが決定しており、一年以内に渡航する予定を持っていた。田中・高濱(2008)で扱った中級セッションと一部参加者が重なっており、そのときと同じ参加者(S2、S3、S5、S6)には同じ記号を付して示してある。

学習に先立ち、社会文化的適応を案ずる程度とその準備状態を、およそ確認するため、留学の目的、心配、準備など、留学に対する姿勢を尋ねておいた(表2)。6名全員が、対人関係や文化理解など、社会文化的な適応に関する心配事を何らかの形で記している。しかし文化行動や対人行動の異文化間教育が、事前に提供された形跡はない。留学先のシステムを調べたり、個人的な対話をしたりすることが、情報的な準備の中心とされていた。一ヶ月程度の他国への滞在経験はあるが、長期滞在の経験はなく、海外渡航歴が全くない者も含まれている。

3. 学習内容

本稿で報告するセッションでは、聞く姿勢、初対面の挨拶、友人関係の開始の3つのスキルの学習を行った。それぞれの課題場面、学習のポイント、解説、その場面で役に立ちそうな英語表現、実施の留意点は、表3のようにしてテキストに記した。

4. セッションの手続き

高濱・田中(2009a)で述べたように、認知行動療法において用いられるソーシャルスキル学習の手続きを応用して、小集団によるロールプレイを中心としたソーシャルスキル学習を実施した。最初に学び方の概略を、以下のように説明した。課題場面ごとにロールプレイを二回ずつ試すこと。肯定的なフィードバックを出し合って、よいところを取り入れていくこと。工夫や努力を否定しないで、自由に試行錯誤できるようにしたいこと。演技はビデオに録画し、

表2 参加者における留学に対する姿勢

ID	海外渡航歴	渡航目的	最も 心配なこと	心配なこと				準備したこと	
				友人が できるか	社会や文 化に適応 できるか	英語力	授業につ いていけ るか	情報収集	情報源
S1	—	自己形成	—	○	○	○	○	—	—
S2	米以外の 英語圏1ヶ月	英語力	授業	○	○	○	○	気候など 現地の 様子	先輩、 留学生、 インターネット
S3	米1ヶ月、他 英語圏2カ国 に各1ヶ月	英語力、 異文化体験、 視野拡大	英語で積極的 に話せるか、 環境になじめ るか	○	○	○	○	大学や寮	留学経験者
S4	—	英語力	—	—	○	○	○	単位認定、 ビザ	留学経験者、 インターネット
S5	米1ヶ月、 アジア半月	経験	—	○	—	○	○	寮、クラス	留学経験者
S6	米1ヶ月	英語力	異文化の生活。 理解できない ことがあったら 落ち込みそう。	—	○	—	○	お金など 注意事項	インターネット

※田中・高濱(2008, p32 表1)にS1とS4を加筆し、一部字句に修正を加えた。

※社会文化的適応に関わる事柄を、太字で示した。

※「心配なこと」は、候補項目を挙げて該当項目に○をつける形式とし、○は「あり」との回答を意味する。「—」は該当欄に記載がなかったことを意味する。

再生しながら振り返っていきたいこと。言語的正確さより、その場にふさわしい態度自体を、非言語面を含めて考えること。現実場面で実際にどうするかは、個人の判断であること。

続いて課題場面を呈示し、演技してもらった。ビデオを使ってそれを振り返りながら、仲間とネイティブの意見を聞いていき、ファシリテーターがそれらを整理して解説を加えた。質疑応答の時間を持ってから、再度のロールプレイと、一度目の演技と同様の振り返りを行った。最後に現実場面での注意を説明して、まとめを行った。

各スキルごとに課題場面は一つずつ設定されており、スキルおよび課題場面が変わるごとに、上記の手続きが繰り返された。最後のスキル3に関しては、セッション終了前にスキル学習自体に関する感想も尋ねた。以下では、学習者の対話記録を中心に、助言者のアドバイスも適宜示していく。対話は間違いや言いよども含めて、発話のままに記した。対話以外の感想やコメントの部分は、間投詞を省くなど口語調を整理し、簡潔に内容を記した。

表3 スキル1・スキル2・スキル3に関するテキストの記載

【スキル1 表情(笑顔)、アイコンタクト、聞く態度】	
1. 課題場面	あなたは大学のオリエンテーションに参加し、他の学生の前で1分ほどの短い自己紹介をすることになりました。まず他の人が順番に自己紹介していきますので、それをよく聞きましょう。そして、自分の番が来たら自己紹介をしましょう。(pp.200-201)
2. ポイント	他人の話をよく聞きましょう。聞いている時は、笑顔とアイコンタクトを忘れずに。
3. 解説	これから学んでいくアサーションのスキルを実践する前には、まず他人の話をよく聞くことが大事です。その際、笑顔とアイコンタクトを忘れずに実践してください。笑顔で聞いていると、話し手に「ウェルカム」の印象をあたえることができます。さらに、日本ではあまりアイコンタクトをとることはしませんが、アメリカではこれも会話の第一段階として重要なことですから、目を合わせて、スマイルを心がけるようにしましょう。(p. 95, p.106)
4. Useful expressions	a. I'm Mariko Takahashi. Nice to meet you.
5. 注意	“How do you do?” “Let me introduce myself. I'm…” はよく知られていますが、かなり堅苦しい印象がありますので、ビジネスの場などで使われる表現です。また、「英語が話せませんI can't speak English.」といった、自己卑下の表現は自信の無さを表すこととなりますので、避けるようにしましょう。
【スキル2 初対面の相手に挨拶する】	
1. 課題場面	いよいよ宿泊先である寮に到着しました。あなたは、大学の寮の2人部屋に住むことになりました。部屋に行ってみると、ルームメイトがいました。彼(女)に初対面の挨拶をし、自分は英語があまりうまくないと思っていることを伝えるにはどうしたらいいでしょうか。(pp.66-67)
2. ポイント	言葉のハンディを補うために、自分の英語があまりうまくないことを明確に伝えましょう。
3. 解説	留学先に到着したばかりの頃は、もちろん語学力にあまり自信が持てないことも多いでしょう。そんな時は、自分が(1)外国人であること(英語はノンネイティブであること)(2)しかし理解できるように努力していることを、明確に言葉で伝えましょう。アメリカには多くの移民がいるので、英語がうまくない人がいて当たり前だとされています。ですから、英語に自信がないことにあまり引け目を感じることはありません。むしろ、あなたが英語力に自信の無いことを伝えるほうが、アメリカ人は喜んで聞いてくれるはずです。
4. Useful expressions	a. I can't speak English very well. (My English is still not good enough.) Would you speak slower, please? b. Excuse me? (Once more, please?) c. Please correct me if I say something wrong.
【スキル3 友人を作る】	
1. 課題場面	あなたは、いつも同じ授業を受けている(アメリカ人の)学生と友達になりたいと思っています。今日もクラスに行くとその学生さんを見つけました。自分から積極的に話しかけるにはどうしたらよいでしょうか。(pp.112-115)
2. ポイント	友達作りのためには、気軽に声をかけてみましょう。まず、はじめの話題として、自分のことから先に話すこと(自己開示)が大切。
3. 解説	友達になりたいと思う相手に出会ったら、まず声をかけることから始めましょう。何か自分に関することから話してみましょう。この時、スキル1で学んだ表情(笑顔)、アイコンタクトを忘れずに行きましょう。さらに、日本人には話のはじめに、相手に質問ばかりしてしまうという傾向があります。これはアメリカ人からは、「尋問」されているようだという印象をもたれてしまうかもしれません。アメリカではまず、自分の情報を提供すること(自己紹介、自分の専門の紹介、同じ授業をとっていること、この間カフェテリアで見かけたこと)などからはじめましょう。
4. Useful expressions	a. I think we're taking the same class. b. I'm a (psychology) major here. c. You're in Prof. Smith's class, right? d. Excuse me, can I sit down here? e. This is my first time taking this course, but it's so hard. f. Oh, yeah! I remember you. g. Hi! Is this class a requirement for your major? (requirement: 必修科目) h. This is one of my electives. (electives: 選択科目) i. I really like this class. How about you? — I like this class, too, but sometimes I can't understand what he's talking about. He talks so fast. j. Would you like to get together and study sometime?

※カッコ内に示したページ数は、参考文献(田中,1994)の該当箇所を表す。

【結果】

1. 学習セッションの記録

(1)スキル1・表情(笑顔)、アイコンタクト、聞く態度

今回の初級セッションでは、対人関係の開始時期に焦点を当てており、初対面の出会い場面を想定している。スキル1では、非言語的なスキルとして、笑顔で話を聞き、目をあわせ、関心を持って聞こうとする、話の受け手としての態度を取り上げている。そこで行われた参加者のロールプレイの1回目および2回目の対話と、その振り返りの記録を、表4、5、6、7に記した。

最初は発言内容に注意が向きがちで緊張していた学習者は、表情や態度に注意を払って、感じのよい対応になるよう助言されている。学生の発言は、二回目の方がふくらみを持っている。対話の受け手であるネイティブ学生は、二回目のほうがより細かいことを助言している。セッションでは対話における非言語メッセージの重要性に注意が促され、その要領が説明されている。ニックネームが頻用されること、目線のあわせ方が日本より多いこと、提案や自己開示などの発信が重視されること、冗談が好まれることなど、行動レパートリーとしては両文化にみられる行為でも、文化的な要求水準に差があることに気づくよう、セッションが進められている。学習者が、日本とは異なる感覚や常識に気づき、使いこなす練習をしている様子が見える。

(2)スキル2・初対面の相手に挨拶する

この場面では、関係を始めようと思う相手に、ふさわしい挨拶とはどのようなものか、その要領は日本と同じなのか違うのか、どのような表現で気持ちを伝えたと伝わるのか、どのような表現は失礼だったり印象を悪くしたりするのか、どのようにすれば親しみと魅力を感じても

表4 スキル1・ロールプレイ1回目の対話

J: It's very nice to meet you. My name is X. I'm a third year student at Y University. My current major is English, but I'm interested in foreign languages, such as Japanese basically. My hobbies include aikido and reading. It's very nice to meet you.

S5: Hello everybody. Nice to meet you. My name is X. I'm from Japan and I'm a student of Y University. And my major is Economics. I'm interested in economics because I like studying English. Maybe I thought English...I thought, to be a good English speaker I'll have to study Economics. But now I'm interested in Sociology, so I will take some classes of that kind of thing. Thank you.

S2: Hello. My name is X. I'm from Japan. My major is Linguistics, so I'm going to study Linguistics in the USA. my hobby is traveling abroad, so I'd like to go a good place in the USA if you know good place...ん、good places. Please tell me. Thank you.

S6: Hello. Nice to meet you. I'm X, from Japan. I like listening to music and I like playing volleyball, and I like have fun together. My major is Education in Japanese, University. But in this University I'd like to challenge business class. I'll do my best. Thank you very much.

S4: My name is X, from Japan, Y University. My major is <major is Law. My hobby is snowboarding. And recently I started skateboarding. Sometimes I... if you are interested, please tell me. Nice to meet you.

S1: Hello everyone. My name is X, I come from Japan and my major is Linguistic. I want to study Linguistics in this university. My hobby is taking photograph and watching movies so ... and I want to go to...no, I want to take some beautiful pictures. So please take me anywhere.
よろしく。

表5 スキル1・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

S5

(学習者) スラスラ言えていた。笑顔が良い。言いたいことが分かりやすかった。発音がアメリカ人みたいだった。

(J) もっとアイコンタクトをした方が良い。

S2

(学習者) 笑顔が良かった。親しみやすい感じが持てた。明るい感じがした。みんなに話しかけている感じが良かった。分かりやすくて良かった。

(J) 「どこかに連れて行ってください」と言ったのが良かった。

S6

(学習者) ジェスチャーを付けて元気もあって楽しそうで良かった。明るい感じが出ていた。

(J) 完璧。元気そうところが良かった。

S4

(学習者) 名札を掲げたのがお茶目で可愛かった。笑顔が良かった。「もし興味があったら話しかけて」と言ったのが良かった。堂々としていて良かった。

(J) 率直な感じがして良かった。

S1

(学習者) 「よろしく」と日本語で言っているのが良かった。親しみやすさを感じた。

(J) 「行きたいところに連れて行ってください」と言ったのが良かった。

(ファシリテーター)

- ・アメリカ人は日本人よりアイコンタクトを重視する。
- ・アメリカ人にとって率直さ、正直さはとても重視される性格のひとつ。
- ・相手に歩み寄る発言をすることで自らアプローチする姿勢を示すと、親しみが持てて良い。
- ・楽しそうな表情をすると友達を作りやすい。

表6 スキル1・ロールプレイ2回目の対話

J : Hello. My name is X. I'm from Y University in America. My major is English. But I'm interested in Japanese as well. I enjoy extra-curricular activities at my college, including...oops...aikido and reading <日本の書名>. It's very nice to meet you.

S5 : Hello everyone. My name is X. I'm from Japan, Y University. I major in Economics in my university, but these days I'm interested in sociology. So I want to take some classes in this university. And I want to join some club activities so please tell me some information about it. Thank you.

S2 : Hello. My name is X. I'm from Japan. Japan is famous for Samurai. I study linguistics in Japan. So I also study linguistics in the U.S.A. My hobby is traveling abroad, so I'd like to go good place in the U.S.A. So if you know good place, please tell me. Thank you. That's all.

S6 : Hello, everyone. Nice to meet you. I'm X from Japan. I'm a fourth grader in university. My major is

Education but recently I'm interested in business, so I'll take business class in this university. Two years ago, I visited this town, Y<地名>. I love Y<地名> so I would like to go to <地名> park for picnic, so let's go to there together. And I'd like listening to music and playing volleyball. That's all. Thank you very much.

S4 : Hello. My name is X from Japan. And my major is Law. I've been to Y for three years, so I can speak English a little. But I want to improve more my English skills, so please speak to me and take me outside. Thank you.

S1 : Hello, my name is X. Please call me X. My major is Linguistics. So I want to study Linguistics in this university. I'd like to something in some of them like ... listening to music and watching movie and taking photograph and especially I really love to take photo. Please take me anywhere you like. どうも、ありがとうございました。

表7 スキル1・ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約

(J)

- ・親しくなるまでは、相手にとって呼びやすい名前（ニックネーム）で覚えてもらった方が良い。
- ・自分についての情報提供は、長すぎて退屈にならない程度に含めるべき。

(ファシリテーター)

- ・アメリカでは日本より多くジョークが用いられるので、面白くなくても自然な英語であれば受け入れられるから積極的に取り入れるべき。

らえるのか、などを考えて演技をしてもらう。(表8、9、10、11)

最初は英語表現が気になってぎこちなくなり、言葉につまる場面もみられたが、タイミング、表情、対人距離など、非言語的な表現に注意するよう助言されている。フィードバックでは、自然さやリラックスに注意が払われている。

助言者は、注意を向けるべきは表現力の限界ではなく、歩み寄りの姿勢を示すことだと理解してもらうために、学習者が示した効果的なサインを取り上げて賞賛している。二回目には、最初うまくいかないと感じた部分が改善されていったり、なめらかさや適切さ、バランスの良さを感じさせていったりしている。これは注目を得た望ましい行動が、強化の対象として認識

表8 スキル2・ロールプレイ1回目の対話

S1 : Hello, my name is S1. I love to speak English, but I'm not good at speaking English. Please teach me English.

N : I'll be happy to. My name is N. My Japanese isn't very good.

J : Hi, I'm N. You must be my new roommate.

S4 : I'm sorry...I'm not good at.... My English is poor. So...sometimes I can't understand what you say. You can't understand what I say, so Please could you speak slowly?

J : Ok, I'll be happy to speak slowly. My name is N. And you're...

S4 : My name is S4.

J : It's very nice to meet you.

S4 : Nice to meet you.

S6 : Hello. Nice to meet you. I'm S6. You must be my roommate?

J : Yes, yes absolutely. My name is X.

S6 : Nice to meet you.

J : Me too.

S6 : I'm happy to see you, but I'd like to say one thing. I don't think my English is good. So if you don't feel comfortable with my English, please tell me. I'd love to have any advice from you.

J : Thank you, but your English is better than my

English.

S6 : No.

J : Yes, I'll be happy to. Nice to meet you.

S2 : Hello, my name is S2. I'm your new roommate. Nice to meet you.

J : Nice to meet you, too. My name is N. Can you speak English well...?

S2 : Uh... my English is not so good. So if you...uh ...please help me, if I'm in trouble.

J : I'd be happy to.

S5 : Hi, my name is S5.

J : My name is N.

S5 : We're...roommates?

J : Aha. We're roommates

S5 : Nice to meet you. My English is so poor, but I try to improve my English. So if I have some trouble, please help me.

J : Yes. Of course

S3 : Hello, my name is S3. Nice to meet you.

J : Nice to meet you, too.

S3 : I'm...my...my English is not so good, but I would like to talk a lot with you about...something.

J : Yes, I'd love that.

表9 スキル2・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

S6

(学習者) 全体的に良かった。自然な感じが良かった。
 (J) 「何年生ですか」 “I have difficulty in ...” と発言したところが良かった。
 (講師) 自分の情報を提供することで相手からオファーを受けられる。

S2

(学習者) 「座ってもいいですか」と聞いて相手と同じ目線になったところが良かった。
 (講師) 相手との距離を縮めることで親しみを感ずってもらえる。

S5

(学習者) 質問攻めにせず、自分の紹介もしていたところが良かった。
 (J) 直接的な表現を使っていたので、友達になりたい、可愛いと思った。

S4

(学習者) ネイティブ並みの表現だった。
 (J) 距離の縮め方が自然だった。

S3

(学習者) 自然な会話ができている良かった。
 (J) 率直な表現が良かった。

S1

(学習者) 相手が興味を持ちそうな話題を提供しているのが良かった。
 (J) 相手と共通の趣味を話題として提供しているのが良かった。

表10 スキル2・ロールプレイ2回目の対話

<p>S3 : Hello. My name is S3. J : Oh, nice to meet you. S3 : Nice to meet you. My English is not so good, but I would like to talk a lot with you. So please teach me English. J : Yes, I'd be happy to.</p> <p>S1 : Hello, my name is S1. Please call me S1. It's my first time ...to ...for me to go to America. So I can't speak English but. I'd like to improve my English skills, so please teach me English. By the way, this room is so cold. J : I think so also.</p> <p>S4 : Hello. Nice to meet you. My name is S4. I want to study English very much. My English...is...still ...not...please tell me.... (笑) J : I'd be happy to help you. S4 : I get confused....Could you help... (笑) Thank you.</p> <p>S5 : Hello, nice to meet you. My name is S5. This is the first day to stay in this dorm. I've studied English for about ten years, but my English is still poor. I've tried to improve my English, so please help me.</p>	<p>S2 : Hello, my name is S2 from Japan. I'm from Y. Nice to meet you. J : Nice to meet you, too. I'm N. S2 : Because my English skill is not so good, if I were in trouble, please tell me. あ、please tell meじゃない、please help me. J : Yeah. S2 : To tell the truth, I, I, I'm very hungry. So please tell me where is the nearest supermarket. J : Yeah I can actually, show you.</p> <p>J : Please come in! S6 : Hello, I'm S6. J : I'm N. S6 : Nice to meet you. J : Nice to meet you, too. S6 : Do you speak English as a mother tongue? J : Ah... yes. Actually, I was born in America. S6 : Really? I'd like to improve my English skill, so could you speak to me in English? J : Oh, Absolutely! S6 : Thank you very much! And if you don't feel comfortable with my English, please tell me. J : Absolutely. S6 : Thank you very much. Why don't we go for a dinner tonight? Don't worry, just dinner.</p>
--	--

表11 スキル2・ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約

S3

(学習者) 1回目よりもスムーズにできていた。

(J) タイミングが良かった。

S1

(学習者) 1回目の改善点をカバーしていてすごいなと思った

(J) 距離が近くなったのが良かった。距離を縮めることは、友達になる第一歩。

S4

(学習者) 最後まで押している感じが良かった。

(J) 受け答えに余裕があって、リラックスした雰囲気を与えてくれた。

S5

(学習者) 「助けてほしい」と自分から言ったのが良かった。

(J) 表情が良かった。

S2

(学習者) 1回目の反省を踏まえているところが良かった。

(J) 言葉遣いがアメリカ人にとって自然な表現だったところが良かった。

S6

(学習者) ハキハキしていて良かった

(J) 最後の誘いにはびっくりした。理由を付けるべきだった。

され、モデリングされていくことを示唆している。学習者が、相手に良好な印象を与えるための具体的な要領を理解していき、言語・非言語の表現を組み合わせ、それらを実践していく様子が読み取れる。

(3)スキル3・友人を作る

出会った人と、友人になるには、どういう方針を持ち、どのような言葉を、どのような態度で出していったらいいかを考えてもらう場面である(表12、13、14、15)。彼らは、友人づくりのスキルに存在する文化差を認識して、アメリカの流儀を試そうと努力している。日本で便利な言い回しや方法は、必ずしもアメリカでも使えるとは限らない。では彼らならどうするのかという発想を持ち、そのパターンを知って、アメリカにおける友達作りの要領をたどっていくのである。

彼らは申し出や依頼や自己開示など、歩み寄りを示す話しかけ方のパターンを認識し、迷いや悩みを表明する率直さが、好感を持って受け止められることを理解し、質問や援助の要請など、関係づくりのきっかけに活用できる行動を試している。彼らの問いかけや申し出は明瞭になり、相手が応じやすいものになっている。助言者からは、行動をよりの確にするための細かい助言が行われている。そして学習者の最後の感想からは、語学力不足を心配するだけでなく、関係作りの会話を楽しむことを経験して、学習に前向きになっていることが伺える。

表12 スキル3・ロールプレイ1回目の対話

S6 : Hi, hello, I'm S6. I've seen you many times in this class.	And help me?
N : Hello, I'm N.	J : Sure. I'd be happy to.
S6 : Nice to meet you.	S5 : Thank you.
N : You too.	S4 : Excuse me, but have you taken this class?
S6 : Which grade are you in? What grade?	J : Oh yes.
N : I'm a third year student.	S4 : Oh me too. I'm S4.
S6 : Are you interested in this class?	J : I'm N.
N : Oh very much, it's my favorite class.	S4 : Nice to meet you.
S6 : Oh really? I like this class, but this is my first time to take business class. So I have a difficulty in writing the papers for assignments, so could you?	J : Nice to meet you too.
N : Would you like some help in writing?	S4 : Have you finished them, homework?
	J : Sure.
	S4 : Tell me. ちょっと here it's noisyだから go outside.
S6 : Yes, please.	J : Let's go.
N : Let's go for it.	
S6 : Thank you very much.	S3 : My name is S3. Nice to meet you.
	J : Nice to meet you.
S2 : Hello, may I sit down next to you?	S3 : I take the same class with you every week. And this class is a little difficult for me. So could you teach me or help me, if I don't know well?
J : Please take a seat.	J : Oh yeah. What did you need help with?
S2 : To tell you the truth, I would like to talk with you about this class. Because my English skill is not so good, so it is, this lecture is a little difficult for me.	S3 : writing or listening
J : Did you need some help for?	J : Yeah. Absolutely.
S2 : Yes, please.	S3 : Thank you.
J : Of course, I'd be happy to.	
S2 : Thank you.おねがいします。	S1 : Hi. I often see you in the smoking area. I hear you're a baseball player?
	J : It's true.
S5 : Excuse me, can I speak to you?	S1 : I'm so interested in baseball too. So please watch baseball game together.
J : absolutely.	J : OK.
S5 : I'm sorry to speak to you something. I'm from Y. And this is the first time...for me and I'm so nervous to say. I found you are taking this class every week. So would you mind to be my friend?	S1 : Here you are.
	J : Thanks so much.

※S6の1回目と2回目の発言は、高濱・田中(2009a)で対話例として報告済みのものだが、全体的な流れを示す意図から再録した。

表13 スキル3・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

(ファシリテーター)

- ・文脈によって様々な意味を持つ、日本語の「よろしくおねがいします」に相当する英語はないと思う。
- ・相手を勧誘するときは、理由を付ける、少しずつ距離を縮めていくなど意図を明確に示した上で注意しないと、警戒されてしまうかも。
- ・相手と共通の話題を見つけることは、友達作りにつながって良い。
- ・物理的に自然な形で距離を縮めることが心理的な距離を縮めることにつながる。

表14 スキル3・ロールプレイ2回目の対話

S3 : Excuse me, can I sit here?	J : Yeah, I'll be happy to.
J : Yes, please.	S4 : So, see you then.
S3 : My name is S3.	J : Bye.
J : I'm N.	
S3 : Nice to meet you. I take same class with you every week.	S2 : Excuse me, my name is S2. Nice to meet you.
J : Oh, really?	J : Nice to meet you
S3 : This class is difficult for me. So could you tell me and help me if I can't understand what the teacher say?	S2 : May I sit next to you?
J : Yes. I'll be glad to.	J : (席を立ち譲る)
S3 : Thank you. By the way, would you like to have lunch together?	S2 : I have some questions about this class. Because my English skill is not so good, please help me.
J : Sure, let's go.	J : Of course.
	S2 : I take test.
	J : Yes, I'll be happy to.
	S2 : Thank you.
	J : Yeah.
S1 : Excuse me, but are you N? I'm looking for you. I've heard you are a so famous baseball player in this university. I've been a member of the baseball club in Japan. So let's play baseball.	S2 : I'll treat you a cup of coffee next class.
J : Let's do it.	J : Oh, that would be nice.
	S2 : Thank you.
S5 : Excuse me. Nice to meet you. I'm sorry I talk to you suddenly, My name is Nana. I came to here a couple days ago. I'm still nervous. So I'm taking this class. I found you are also taking this class. So I have some problem these days, so would mind to have lunch someday?	S6 : Excuse me. Do you mind if I sit next to you?
J : That would be fine.	J : Please go ahead.
S5 : Thank you.	S6 : Hi, I'm S6.
	J : I'm N.
	S6 : Nice to meet you.
	J : Nice to meet you.
	S6 : Actually, I've seen you many times in this class.
	J : Oh really? You take this class also?
	S6 : Yes. And the presentation in the last class was great. You made. It was amazing. So would you do me a favor?
	J : Yeah.
	S6 : I have to do give a presentation next week. So could you help me?
S4 : I often see you in front of the dormitory. So I think you are living in the dormitory.	J : Oh, yes. I'd be happy to.
J : Do you live in the dormitory also?	S6 : Could you go for lunch together?
S4 : Yeah. I'm S4. Nice to meet you.	J : Sure. Yeah, let's go.
J : I'm N. Nice to meet you.	
S4 : If you have the time after school, could you show me around this school?	

【考察】

学習者はアメリカにおける友達作りの要領を、対話例をたどりながら試していた。考え方の違いや発想の特徴を理解し、効果的な行動や期待される行動をレパートリーに加えていった。そして表現の仕方はより効果的なものになり、違和感の少ないものになっている。ここで発生する「自然な」感じは、社会的文脈に照らした際の適切さを表すものだろう。

対話記録をたどると、参加者が言語表現上の工夫をしながら、非言語の表現にも次第に気を配っていくこと、そしてどういう行為が社会的に適切なのかを気づきとともに学び、対応の方

表15 スキル3・ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約

S1

(J) 話しかける前に名前を調べておくの良いかもしれない。

S5

(学習者) 言いたいことがきちんと伝わっていて良かった。「分からないところがあったら教えてほしい」と言ったのが良かった。

(J) 緊張していると正直に言っていたのが良かった。

S4

(学習者) 身近な話題を出したところが良かった。

(J) 共通の話題を提供したところが良かった。

S2

(学習者) 「隣に座っても良いですか」と言ったところが良かった。

(J) 友達同士、という雰囲気が出ていて良かった。

(講師) 「コーヒーいかがですか」という誘い文句はとても自然で良い。

S6

(学習者) 会話内容が具体的で良かった。相手を褒めた上で「手伝ってください」と頼んだところが良かった。

(J) 相手のことを高く評価した後に頼みごとをするのは良いアイデア。

ファシリテーターの板書

共通の話題、感情の共有、名前をきいておく・調べておく、正直、率直、ユーモア、友達同士であることをする、自分の状況の情報提供、相手のパフォーマンスへのコメント

学習者の感想

(S6) 楽しかった。みんなとのロールプレイを通して自分の英語力における課題が浮き彫りになったので、良かった。

(S2) 自分の欠点が改めて見つかったので、これからは誤魔化さず話せるよう、もっと勉強しようと思った。

(S5) いよいよ留学が近付いているのだなと実感した。

(S3) 現地で使える表現を知ることができて良かった。

針自体を得ていくことが伺える。具体的な行為の例を知って、意欲的に試しているといえる。試行錯誤の許される場という共通理解があるので、間違ったり表現が不足したりする面が残っていても、それはあえて批判されない。今回の記録は対話の文字記録が主なので、非言語の部分はフィードバックなどから推察するしかないが、内容は、質問や発話の中身自体が詳細になっていたり、独特の言い回しや効果的な発言を取り入れたものに変化している。与えられた助言から、自分の態度や考え方を見直していつている。

「友達になりたい」「近づきたい」という発想を形にして関係を開始するには、文化行動の規範に則した行動パターンが効果的である。気持ちを伝えるには、適切に伝わる形態が必要であり、そこに行動の文化差が存在するとき、我々は行動の「スイッチング」を考えるようになる。その背景には文化的な価値体系を理解し、発想の要領を知っていくという、異文化間教育が必要になるものと考えられる。

こうしたセッションを起点に、縦断研究のパラダイムを組み、セッションに参加した留学生に追跡調査を行うことで、渡航前に学んでおいたソーシャルスキルを渡航後に使ったかどうか、

異文化適応を高めたかどうかを確認できる。また、学習したスキルの妥当性を確認して、学習内容を調整することもできよう。留学中の様子を丁寧にたどっていくことで、セッションの効果を確認してセッションを洗練させていくことが、今後の焦点になるだろう。

引用文献

- 高濱愛・田中共子（2009a）「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習セッションの試み—対人関係の開始に焦点を当てて—」『留学生教育』第14号、pp.31-37.
- 高濱愛・田中共子（2009b）「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習の試み—アサーションに焦点を当てて—」『異文化間教育』30, pp.104-110.
- 田中共子（1994）『アメリカ留学ソーシャル・スキル：通じる前向き会話術』アルク
- 田中共子（2000）『留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル』ナカニシヤ出版
- 田中共子・高濱愛（2008）「米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習：大学での学習場面への対応を課題とした中級セッションの記録」『岡山大学文学部紀要』第49号, pp. 31-48.

註1．本研究は、科学研究費補助金・萌芽研究 No. 19653099（代表・高濱愛）の助成を受けた。

2．上記補助金による研究組織の代表者が本稿の第二著者、分担者が第一著者である。研究の企画・実施・分析を共同して行い、本稿の主な執筆作業を第一著者が担当した。